



Hewlett Packard Enterprise

Cloud Service Automation

コンセプトガイド

ソフトウェアバージョン: 4.60

ドキュメントリリース日: 2016 年 1 月 (英語版)

ソフトウェアリリース日: 2016 年 1 月

目次

はじめに.....	2
組織.....	2
HPE Cloud Service Automation ユーザーロール.....	2
プロバイダー組織ロール.....	2
コンシューマー組織ロール.....	3
アクセス制御.....	3
リソースプロバイダー.....	3
コンポーネント.....	3
サービスデザイン.....	3
サービスオファリング.....	4
サービスオファリングのカスタマイズ.....	4
カタログ.....	4
サービスインスタンス.....	5
シーケンスサービスデザインに基づいたサービスインスタンスのアップグレード.....	5
HPE CSA コンテンツのエクスポートとインポート.....	5
HPE Codar での継続的デリバリ.....	6
マーケットプレイスポータルでのクラウドサービスのショッピング.....	6
クラウドサービス管理コンソールの操作.....	7
HPE プロフェッショナルサービスによる HPE CSA のデプロイメント.....	7
ライセンス.....	8
ドキュメントのフィードバックの送信.....	9
ご注意.....	9
保証.....	9
権利の制限.....	9
著作権について.....	9
商標について.....	9
ドキュメントの更新情報.....	9
サポート.....	9

はじめに

本書では、HPE Cloud Service Automation (HPE CSA) の主な用語、主要な機能、重要なプロセスについて説明します。

HPE Cloud Service Automation (HPE CSA) は、コンピューターリソース、インフラストラクチャーリソース、複雑なマルチティアアプリケーションアーキテクチャーのデプロイメントを統合する HP 独自のプラットフォームです。HPE CSA は複数の HPE データセンター管理製品と自動化製品を統合し、リソース管理、サービスオフリング、サービスデザイン、カスタマーポータルなどの機能を追加することで、包括的なサービス自動化ソリューションを実現しています。

CSA のサブスクリプション、サービスデザイン、リソース使用状況機能を利用して、次の 3 つの課題に対処できます。

- HPE CSA のマーケットプレイスポータルでは、顧客が新しいクラウドサービスの要求や既存のサービスのモニターと管理を行うためのインターフェイスが提供され、ビジネス要件に合ったサブスクリプションの価格設定を構成できます。
- HPE CSA のグラフィカルサービスデザインおよびコンテンツポータルビリティツールを使用すれば、顧客のニーズに合わせてデザインしたサービスオフリングの開発、活用、共有が容易になります。
- HPE CSA のライフサイクルフレームワークおよびリソース使用状況機能を使用すれば、クラウドフルフィルメントインフラストラクチャーを再利用可能な自動化されたリソースオフリングにマッピングする作業が簡単になり、スケジュールに沿った予算内でのデリバリーを実現します。

組織

HPE CSA の組織には、メンバーがクラウドシステムにアクセスする際のエントリーポイントを決定し、そのメンバーを、サービスとリソースに関連付ける機能があります。組織とは一般的に、会社、ビジネスユニット、部署、グループなどのビジネスエンティティを指します。HPE CSA は、組織の ID 管理システムに問い合わせて、組織のメンバーとグループを知り、その情報を使用して、HPE CSA ユーザーの認証と、そのユーザーのアクションの承認を行います。

HPE CSA では、CSA のインスタンスごとにプロバイダー組織を 1 つ定義します。プロバイダー組織ロールを割り当てることにより、HP CSA の管理機能へのアクセスを制御できます。プロバイダー組織のメンバーはクラウドサービス管理コンソールから、コンシューマー組織の作成、作成した組織の管理、リソースとサービスの管理 (リソースとサービスの設計、オフリング、発行など) を行います。管理可能な組織、リソース、サービスは、プロバイダー組織のメンバーに割り当てられているロールによって決まります。たとえば、CSA Administrator は組織、リソース、サービスの管理をすべて実行できますが、Consumer Service Administrator が実行できるのは組織の管理のみです。

コンシューマー組織は、マーケットプレイスポータルを使用して、プロバイダー組織が設定したリソースやサービスをサブスクライブしたり、消費したりします。複数のコンシューマー組織を構成することもできますが、各コンシューマーまたはサブスクライバーは、自分がメンバーになっているコンシューマー組織に関する情報だけを見ることができます。HPE CSA は、コンシューマー組織とカタログ、ID 管理システムのデータを使用して、サービスオフリングとサブスクライバーのマッピングを行います。

HPE Cloud Service Automation ユーザーロール

クラウドサービス管理コンソールでは、ロールに基づいて使用できる機能が決まります。

プロバイダー組織ロール

プロバイダー組織ロールによって、特定タスクの実行と、クラウドサービス管理コンソールの特定領域へのアクセスが承認されます。一般的にこのロールは、CSA 管理者によって構成されます。

- Administrator - Administrator は、クラウドサービス管理コンソールの全機能にアクセスできます。
- Consumer Service Administrator - Consumer Service Administrator は、コンシューマー組織の構成と管理を行います。
- Resource Supply Manager - Resource Supply Manager は、リソースプロバイダーやリソースプールなど、クラウドリソースの作成と管理を行います。
- Service Business Manager - Service Business Manager は、サービスオフリングとサービスカタログの作成および管理を行います。
- Service Designer - Service Designer は、サービスデザイン (ブループリントとも呼ばれます)、コンポーネントパレット、コンポーネントタイプ、コンポーネントテンプレートおよびリソースオフリングのデザイン、実装、維持を行います。
- Service Operations Manager - Service Operations Manager は、サブスクリプションとサービスインスタンスの表示と管理を行います。

コンシューマー組織ロール

コンシューマー組織ロールでは、マーケットプレイスポータルへのアクセスが許可されます。

- Consumer Organization Administrator - このロールでは、次の操作を実行できます。
 - 組織内のカタログの作成、編集、削除を行います。
 - 組織のカタログ内にあるサービスオファリングを管理します。
 - 組織内でアクセス制御、承認ポリシー、カテゴリを管理します。
 - オリジナルのサブスクライバーの代わりにサブスクリプションでアクションを実行することにより、組織内のユーザーサブスクリプションを管理します。
 - HPE IT business analytics を使用して、IT サービスおよびプロセスのコスト、リスク、品質、価値を測定および最適化します。
- Service Consumer - Service Consumer は、組織で利用できるサブスクリプションの要求と管理をマーケットプレイスポータルを使って行います。Service Consumer は、カタログの参照、サービスのサブスクライブ、サブスクリプションの表示、およびサブスクリプション要求の承認や否認をマーケットプレイスポータルから行えます。Service Consumer は、クラウドサービス管理コンソールにログインできません。

アクセス制御

組織ユニットの識別名をロールに関連付けることで、ディレクトリサービスグループまたは組織ユニットをロールに追加または削除できます。グループまたは組織ユニットのメンバーである認証済みユーザーはロールに割り当てられており、このユーザーが認証されると、特定のタスクの実行や、クラウドサービス管理コンソールの特定の領域へのアクセスが可能になります。グループまたは組織ユニットの識別名は、複数のロールへの割り当てが可能です。

リソースプロバイダー

プロバイダーとは、クラウドコンピューティング環境で使用するインフラストラクチャとリソースを中央管理する管理プラットフォームです。たとえば、HPE Matrix Operating Environment などのプロバイダーは仮想マシンをデプロイし、HPE SiteScope などのプロバイダーはアプリケーションを監視します。

プロバイダーは、サービスデザインのインスタンス化のために HPE CSA と統合されるアプリケーションの特定のインスタンスに対応します。たとえば、HPE Matrix Operating Environment を対象としたサービスデザインを行うには、まずプロバイダー（プロバイダータイプは HPE Matrix Operating Environment）をクラウドサービス管理コンソールで作成する必要があります。定義では、ユーザー資格情報や、HPE Matrix Operating Environment サービスアクセスポイントの URL などの詳細情報を指定します。

コンポーネント

コンポーネントはサービスデザイン（シーケンスまたはトポロジ）の要素です。[コンポーネント] タブには、トポロジコンポーネントのみが表示されます。シーケンスコンポーネントは、プロバイダーやプロバイダータイプには関連付けられません。[コンポーネント] タブでは、特定のプロバイダーインスタンスに関連付けられているトポロジコンポーネントの表示と、トポロジコンポーネントの管理を行うことができます。

サービスデザイン

オンデマンドでのサービスデリバリーを自動化するには、サービスデザインを作成、構成、変更します。サービスデザインとは、クラウドを自動化するためのレシピであり、再利用可能なコンポーネントから構成されます。サービスデザインに含まれるサービスコンポーネントとそれらの間の関係は、サービスを作成するためのフレームワークを定義します。

サービスデザインは、コンシューマーがサービスをオーダーするときに選択するオプションの構造も指定します。デザインを複数のサービスオファリングに再利用し、各サービスオファリングをコンシューマー組織とグループの個々のニーズに合わせてカスタマイズすることができます。また、HPE CSA に付属するサービスデザインを利用したり、複数の HPE CSA 間でデザインをエクスポート/インポートしたりすることもできます。

作成できるデザインのタイプは次のとおりです。

- **トポロジデザイン** - トポロジデザインは、コンポーネント、関係、プロパティを指定します。シーケンスデザインがプロビジョニングの順序と実行されるアクションのシーケンスを明示的に定義するのに対し、トポロジデザインは宣言的性質を持ち、明示的なアクションやシーケンスを含みません。トポロジデザインでは、プロビジョニングシーケンスはコンポーネントの間に存在する関係から推測されます。
トポロジデザインは Chef、Puppet、HPE Server Automation、HPE Operations Orchestration フローベースのコンポーネントを通じて実現される IaaS (Infrastructure as a Service)、PaaS (Platform as a Service)、および SaaS (Software as a Service) デプロイメントに対して使用します。
- **シーケンスデザイン** - シーケンスデザインは、サービスコンポーネントライフサイクルの方向付けられた実行を指定するもので、各コンポーネントのデプロイ時に選択されるリソースを制御する仕組みを提供します。シーケンスデザインを作成する際には、サービスコンポーネントでリソースバインドを指定することにより、選択できるプロバイダーを制限します。このバインドによって、コンポーネントは 1 つまたは複数のリソースオファリングにリンクされ、このリソースオファリングによってコンポーネントはプロビジョニングされます。
シーケンスデザインは、複雑なサービスやランブックオートメーションを必要とするサービスに使用します。例としては、旧式のデータセンターシステムとの統合などが挙げられます。シーケンスデザインは、ライフサイクル実行を定義する方向付けられたコンポーネント階層として作成します。シーケンスデザインでは、コンポーネントを使用して、複数のオートメーションプロバイダーを 1 つのエンティティ内にグループ化します。また、ライフサイクルアクションの明示的な指定が可能です。

- **サブスクリバードプション** - サブスクリバードプションを使用すると、オフリングでサービスデザインオプションを公開できます。これらはサービスデザインのオプションセットです。これらのオプションセットはオフリングに表示されます。サブスクリバードプションには、オプションの価格設定、オプションの非表示、オプションプロパティの値設定などの調整を加えることができます。サブスクリバードプションは、サブスクリバードに対して提供されます。

サービスオフリング

サービスオフリングには、最適なサービスを選択するうえでコンシューマーが必要とする情報がすべて含まれています。各サービスオフリングは、サービスデザインを参照しています。サービスデザインには、サービスのオプションとコンポーネントが定義されています。利用条件、オプションの表示設定、価格設定など、それぞれのコンシューマーグループのニーズに合わせてサービスオフリングをカスタマイズします。デザインをサブスクリバードに公開する準備ができたなら、サービスオフリングをマーケットプレイスポータルのカタログに発行します。

マーケットプレイスポータルのカタログでサブスクリバードにデザインを公開する準備ができたなら、シーケンスデザインまたはトポロジサービスデザインからサービスオフリングを作成します。シーケンスデザインまたはトポロジデザインからサービスオフリングを作成できます。価格設定はサービスオフリングで構成され、初期価格、定期加算料金、オプション固有の料金を指定できます。マーケットプレイスポータルでサブスクリバードに対して、初期価格と定期加算料金の詳細を表示または非表示にできます。また、標準のサービスオフリングにドキュメント (サービスレベルアグリーメント、利用条件など) やスクリーンショットを添付できます。スクリーンショットとは、マーケットプレイスポータルでオフリングのユーザーに対する視覚的表現の役割を果たす画像とキャプションです。

サービスオフリングのカスタマイズ

サービスオフリングは、さまざまなグループ向けにカスタマイズできます。1 つのサービスデザインで異なる属性を指定することにより、グループごとにサービスオフリングをカスタマイズできます。カスタマイズしたサービスオフリングは、各グループで表示可能なカタログに発行します。

サービスオフリングでは、次の属性を構成できます。

- オフリングの名前、説明、画像、タグ
- シーケンスデザインをベースにしたオフリングで表示するオプション
- サブスクリプションの価格設定
- サービスレベルアグリーメントや利用条件などの添付ドキュメント
- 関連付けられたスクリーンショットなどの画像
- サービスオフリングごとに複数のバージョン

サービスオフリングとグループをリンクするには、サービスオフリングを、そのグループのカタログに発行します。HPE CSA は、カタログを使用して、各ユーザーに表示するサービスオフリングを制限します。マーケットプレイスポータルで表示されるオフリングは、ユーザーのグループに関連付けられたカタログに発行されているオフリングに限定されます。サービスオフリングで構成されている場合は、マーケットプレイスポータルで価格設定の詳細をサブスクリバードに対して非表示にできます。

HPE CSA は、組織の ID 管理システムで構成されているグループのメンバーに基づいて、カタログへのアクセスを管理します。したがって、個々のユーザーや組織のグループの作成や保守などを直接管理することはありません。HPE CSA で組織を作成する場合は、それぞれに ID 管理システムを指定し、組織のユーザーインターフェイスにアクセスできるグループを指定します。また、カタログへのアクセスは、HPE CSA 組織内のグループごとに指定することもできます。各組織のグループのメンバーを ID 管理システムに作成しておく必要があります。通常の場合、HPE CSA でのアクセス制御に必要なグループはすでに作成されていますが、特定のニーズ用に新しいグループを作成する必要がある場合もあります。

カタログ

カタログによって、サービスオフリングと、コンシューマー組織内のグループがマッピングされます。サービスオフリングがカタログに発行されると、カタログと関連付けられているグループは、そのオフリングをマーケットプレイスポータルに表示できるようになります。各カタログは、カタログに関連付けられた組織内の特定のグループに表示されるように設定できます。また、各カタログのデフォルトの承認プロセスと、利用可能な承認ポリシーも指定できます。また、1 つのサービスオフリングを複数のカタログに発行して、複数のコンシューマーのセットに表示させることもできます。

カタログは、自動的に作成されたデフォルトのカタログ (Global Shared Catalog) を構成して作成することも、また、新しいカタログを手動で作成して組織に関連付けることもできます。複数のカタログを同じ組織に関連付けることができ、Global Shared Catalog への変更はすべての組織のマーケットプレイスポータルに反映されます。

サービスインスタンス

すべてのコンシューマー組織のサブスクリプションおよびサービスインスタンスの表示と管理を行うには、クラウドサービス管理コンソールの [オペレーション] 領域を使用します。サブスクリプションはサブスクリプション要求から作成されます。サブスクリプション要求とは、サブスクライバー (エンドユーザー) がマーケットプレイスポータルのサービスカタログを使用して行うクラウドサービスのデリバリ要求です。サブスクリプション要求が承認されると、サービスインスタンスが作成されます。

HPE CSA は、サービスのデプロイメント中にサービスインスタンスアーティファクトを作成し、サービス管理中にサービスインスタンスを更新します。サービスインスタンスには、デプロイしたサービスとそのコンポーネントの詳細 (ネットワークセグメントコンポーネントでプロビジョニングした IP の詳細など) がすべて含まれます。HPE CSA は、サービスオファリングで構成したサービスデザインとコンシューマーの需要に基づいて、サービスインスタンスを作成します。

シーケンスサービスデザインに基づいたサービスインスタンスのアップグレード

HPE CSA には、オペレーション制御や機能を追加するために、元のサービスデザインの定義を超えて、シーケンスデザインに基づいたサービスインスタンスのアップグレードを行う**独自の機能**が用意されています。この機能を使用することで、以下の例に示すような、さまざまなユースケースの実現が可能になります。

たとえば、仮想マシンをデプロイするのに使用するシーケンスサービスデザインの場合、このサービスデザインに基づいたサービスインスタンスには、サービスインスタンスの作成時にデプロイされた仮想マシンを表すサーバーコンポーネントが含まれています。サービスインスタンスのアップグレードプロセスにより、仮想マシンの監視機能の提供、仮想マシンでの追加のファイアウォールルールの構成、仮想マシンへの重要な更新パッチの適用、仮想マシン上でのアプリケーションのデプロイなど、サービスインスタンスへの機能を追加で行うことができます。このアップグレードプロセスでは、既存のパブリックアクション上へのパブリックアクションの追加など、サービスインスタンスに追加のオペレーション制御を提供することもできます。

また、マルチティアアプリケーションをデプロイするのに使用するシーケンスサービスデザインの場合、同じアプリケーションの新規バージョンの提供や新規アプリケーションアーキテクチャーの変更に合わせて、マルチティアアプリケーションを表すサービスインスタンスを新しいバージョンや新しいアーキテクチャーに対応するようにアップグレードできます。

サービスインスタンスのアップグレードプロセスでは、通常、サービスデザインのアップグレードバージョンの作成、サービスデザインのアップグレードバージョンに基づいたサービスオファリングのアップグレードバージョンの作成、サービスオファリングのアップグレードバージョンのカタログへの発行、およびオペレーションコンソールや REST API を介したサービスのサブスクリプションのアップグレードを行います。

シーケンスデザインベースのサービスインスタンスのアップグレードの詳細については、サービスインスタンスのアップグレードに関するホワイトペーパーを参照してください。

HPE CSA コンテンツのエクスポートとインポート

サービスデリバリーを効率よく行うために、HPE CSA の実行インスタンス間でサービスデザインとリソースオファリングをインポートおよびエクスポートできます。この操作は、クラウドサービス管理コンソールから、またはコマンドラインでコンテンツアーカイブツールを使用して行います。

HPE CSA のエクスポートでは、サービスデザインとリソースオファリングをパッケージ化して、移動可能なコンテンツアーカイブを作成します。サービスデザインのコンテンツアーカイブには、デザインが参照するリソースオファリングも含まれています。コンテンツをインポートする準備として、まず HPE CSA と HPE Operations Orchestration (HPE OO) を同期する必要があります。これにより、HPE CSA が参照する HPE OO プロセス定義がすべて処理対象になります。

HPE CSA はデザインコンテンツのインポートで、必要なリソースオファリングがすでにシステム上にインストールされているかどうかをチェックします。HPE CSA は既存のリソースオファリングを適宜参照します。新しいリソースオファリングは自動的にインポートされ、インポート済みのサービスデザインにリンクされます。

HPE と HPE パートナーは、一般的なリソースプロバイダー向けのコンテンツを事前に設定しています。柔軟で汎用性のあるデザインなので、複数のサービスデザインで再利用できます。事前作成されているリソースオファリングをインポートしたら、リソースオファリングのフルフィルメントが可能でリソースプロバイダーを特定します。

HPE CSA では、サービスデザインとリソースオファリングがいくつか事前定義されており、ユーザーの用途に合わせてカスタマイズできます。特定の HPE CSA アプリケーション向けに開発された「コンテンツ」は、インポートとエクスポートにより、ビジネスニーズに合わせて調整できます。HPE CSA の本バージョンに付属している事前定義された統合コンテンツは、HPE CSA メディアのライブラリフォルダーに収録されています。

また、HPE Live Network Web サイト (<https://www.www2.hp.com/>) からダウンロードできます。このサイトへのアクセスには権限が必要であり、HPE Cloud Service Automation で有効な HPE Support Agreement ID (SAID) と HPE Passport への登録が必要です。サービスデザインとリソースオファリングのサンプルの詳細については、HPE プロフェッショナルサービスの担当者にお問い合わせください。

HPE Codar での継続的デリバリ

HPE Codar は、システムへのあらゆる変更がリリース可能で、すべてのコード変更を運用環境にデプロイ可能な継続的デリバリを促進します。Codar は継続的デリバリの自動化を実現し、コードの変更が発生するとビルドが開始されます。ビルドがデプロイされると、自動化されたユニットテストが実行されます。アプリケーションは、ランブック自動化フローで定義されたポリシーに基づいて、自動的に環境にデプロイされます。継続的デリバリの目的は、デリバリを頻繁に行い、ユーザーからのフィードバックを迅速に得ることです。中核となるバリュープロポジションの要素には、次のものがあります。

- 宣言ベースのモデリング
- Infrastructure as Code (IaC)
- アプリケーションパイプライン管理
- オープンで拡張可能な API

マーケットプレイスポータルでのクラウドサービスのショッピング

HPE CSA では、先進的なエンタープライズ対応のマーケットプレイスポータルを通じて、クラウドサービスが提供されます。マーケットプレイスポータルのホームページであるダッシュボードでは、さまざまな方法でサービスオファリングを購入し、カタログやサービスオファリング、要求、サブスクリプションを管理できます。

ダッシュボードのバナーで、[ショッピングの開始] をクリックすると、すぐにショッピングを始めることができます。いくつかのカテゴリ、キーワード検索、サービスオファリングフィルターへのクイックリンクを使用してサービスの参照やオーダーを実行できます。また、グローバル検索機能を使用して、サービスやサブスクリプションを参照することもできます。

サイドバーメニューを使用すると、マーケットプレイスポータルの任意のビューとの間で直接簡単に移動できます。

ダッシュボードでは、タイル行を上下にスクロールし、カテゴリ別にサービスオファリングを選択してオーダーしたり、サブスクリプションを管理したりできます。

テナント管理者としてログインしている場合、[管理] の各タイルにアクセスして、次の操作を実行できます。

- オリジナルのサブスクライバーの代わりに、組織内のユーザーサブスクリプションを管理します。
- 組織内のカタログの表示、作成、編集、削除を行います。
- 自分の組織のカタログでサービスオファリングの表示、作成、削除、発行、発行解除を行います。
- 組織内でアクセス制御、承認ポリシー、カテゴリを管理します。
- HPE IT Business Analytics を起動します。これにより、CSA のメトリックが自動収集され、主要業績評価指標が作成されます。



図 1: マーケットプレイスポータルのダッシュボード

クラウドサービス管理コンソールの操作

クラウドサービス管理コンソールダッシュボードは、組織とユーザーの構成、デザイン作成、カタログの管理といった作業を行うための領域に移動するために使用します。クラウドサービス管理コンソールのタイトルバーにある [Cloud Service Automation] をクリックすれば、いつでもダッシュボードに戻ることができます。

クラウドサービス管理コンソールで表示とアクセスが可能な領域は、ユーザーのロールに応じて異なります。ダッシュボードと、クラウドサービスの管理および構成の詳細については、『HPE CSA クラウドサービス管理コンソールヘルプ』を参照してください。

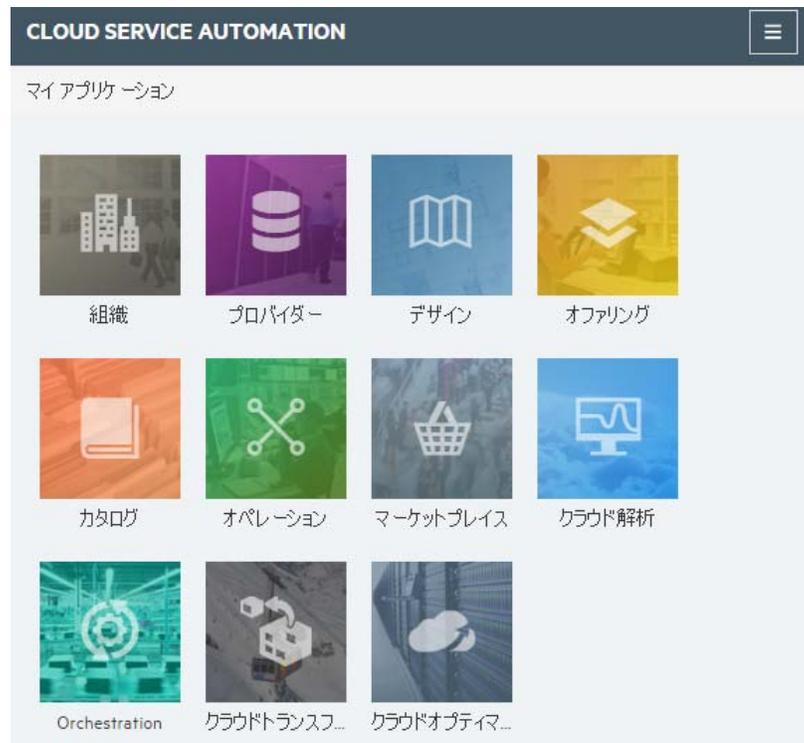


図 2: クラウドサービス管理コンソールのダッシュボード

HPE プロフェッショナルサービスによる HPE CSA のデプロイメント

HPE プロフェッショナルサービス組織 (PSO) は、HPE CSA デプロイメントサービスを提供しています。PSO のスタッフは、デプロイメントの計画作成とアクティビティについてオンサイトのスタッフと綿密に調整します。オンサイトデプロイメントの最初のサービスでは、ネットワークやストレージの基本設定、HPE CSA の基盤やコンポーネント製品で使用するサーバーのインストールなどを行います。さらに、HPE CSA を既存のビジネスプロセスに統合する作業を支援し、組織のニーズに応じたカスタムソリューションの開発も行います。

HPE CSA は、各ユーザーのビジネスプロセスに合わせて拡張し、カスタマイズすることが可能です。HPE CSA のほとんどの高レベルなオブジェクトとエンティティは、ある程度までのカスタマイズに対応しています。次の HPE CSA オブジェクトの拡張には、クラウドサービス管理コンソールを使用できます。

- サービスデザインとリソースオファリングのサンプルの利用: サンプルのコンテンツアーカイブをベースに、独自のサービスデザインとリソースオファリングを作成できます。
- プロバイダータイプの作成: 新しいプロバイダータイプを作成できます。たとえば、データベースのプロビジョニング用にプロバイダータイプ (ここでは HPE Database and Middleware Automation (HPE DMA) とします) を追加する場合、手順としては、プロバイダータイプを作成し、リソースプロバイダー (特定の HPE DMA サーバーなど) を指定します。次に、データベースというカテゴリでリソースオファリングを作成します。カテゴリでフィルター処理すれば、特定のサービスコンポーネントで表示できます。
- シーケンスデザインのコンポーネントタイプとテンプレートの作成: コンポーネントタイプは、シーケンスデザインに新しいコンポーネントを追加するための出発点の役割を果たします。コンポーネントタイプは、コンポーネントパレットによって組織化されています。コンポーネントタイプは、サービスコンポーネントのプロパティとその初期値を定義し、サービスコンポーネントがサービスデザイン内でリソースオファリングとの間に持つ関係を制約します。
- シーケンスデザインのライフサイクルアクションのカスタマイズ: ライフサイクルアクションは、シーケンスデザインのサービスコンポーネントとリソースオファリングの両方に対して作成できます。たとえば、プロビジョニングが完了したサーバーがオンライン状態になった時点でサブスクライバーに電子メールで通知する場合を考えてみましょう。通知プロセスをトリガーするライフサイクルアクションをサービスデザインに追加します。まず、HPE OO との同期を確認し、サービスデザインが HPE OO フローの呼び出しを正しく生成できるようにします。次に、サービスコンポーネントを編集し、ライフサイクルアクションの新規作成と関連付けを行います。

- サービスカタログの作成: Global Shared Catalog は 1 つしか持てませんが、サービスカタログは組織ごとに複数作成でき、それぞれで異なるサービスオファリングを選択することが可能です。組織に関連付けられた各カタログには、必要な承認プロセス、アクセス制御ポリシー、カタログ画像を関連付けることができます。
- HPE CSA API (アプリケーションプログラムインターフェイス) の使用: HPE CSA 機能の基盤になるのが、API 群です。この REST API の設計では、マーケットプレイスポータル機能とクラウドサービス管理コンソール機能が明確に区分されています。したがって組織は、専用のカタログとサブスクリプションの機能を HPE CSA 上で別に構築し、マーケットプレイスポータルを置き換えることができます。

HPE プロフェッショナルサービスの詳細や HPE CSA のデプロイメントの計画については、HPE の担当者にお問い合わせください。

HPE CSA のインストールと構成の手順については、『HPE Cloud Service Automation インストールガイド』と『HPE Cloud Service Automation Configuration Guide』を参照してください。

ライセンス

次のライセンスタイプを使用できます。

HPE CSA の恒久ライセンスのみ。

HPE Codar の恒久ライセンスのみ。

HPE CSA をインストールする場合は、まず HPE CSA のライセンスを追加する必要があります。HPE Codar をインストールする場合は、まず HPE Codar のライセンスをインストールする必要があります。基本ライセンスを適用した後で、必要に応じてアップグレードライセンスを追加できます。

詳細については、『HPE Codar コンセプトガイド』などのドキュメント (<https://softwaresupport.hp.com/>) を参照してください。

ドキュメントのフィードバックの送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想は、電子メールで clouddocs@hpe.com までお送りください。

ご注意

保証

Hewlett Packard Enterprise 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、Hewlett Packard Enterprise はいかなる責任も負いません。ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、Hewlett Packard Enterprise からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2016 Hewlett Packard Enterprise Development LP

商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®および Windows®は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Oracle および Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

UNIX®は、The Open Group の登録商標です。

RED HAT READY™ロゴおよび RED HAT CERTIFIED PARTNER™ロゴは、Red Hat, Inc の商標です。

OpenStack Word Mark および Square O Design は、単独でも両方でも、OpenStack Foundation の米国およびその他の国における登録商標であり、OpenStack Foundation の許可を得て使用されています。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。 <https://softwaresupport.hp.com>

[ダッシュボード] メニューで [マニュアル] を選択すると、利用可能なすべてのドキュメントが表示されます。検索およびフィルター機能を使用すると、ドキュメントやホワイトペーパーなどの情報ソースを検索できます。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、Hewlett Packard Enterprise の営業担当にお問い合わせください。

サポート

Hewlett Packard Enterprise ソフトウェアサポートオンライン Web サイトを参照してください。 <https://softwaresupport.hp.com>